

## 第5回青森ねぶた祭検討特別委員会会議概要

日 時 平成17年11月4日(金) 13時30分～15時15分

場 所 ラ・プラス青い森 4F ル・クリスタル

出席者 蝦名委員長、佐藤副委員長、對馬委員、若井委員、勝又委員、千葉委員、  
柳谷委員、太田委員、奈良委員、澤田委員、采田委員

欠席者 武田委員

### 委員長挨拶

- ・今回はねぶたミュージアムのご意見を頂くが、この場の意見が最終決定ではない。

### ○前回議事要旨の確認について

事務局より前回議事概要を説明し、内容確認をした。続いて、前回の委員会の結論を基に青森警察署に交渉した結果を説明した。

- ①コースと運行方法の継続については異論ない。
- ②運行時間の繰り下げについては検討する。後日返答する。

### ○会議概要(ねぶたミュージアムについて)

- ・囃子講習会の場所の確保と講師を育成しなくてはならない。特に冬期間練習場所がない。年間通して講習会が出来る防音の部屋が必要。大太鼓も数台常備し市民や観光客が叩けるような場所が欲しい。
- ・近年、市民館等で太鼓使用が禁止となり練習がまともに出来ない。現在会場となっているアスパムのパノラマ館も制約が厳しく、太鼓に毛布を掛けて叩いている。公開の練習場と併設でも良いので、場所を確保して欲しい。
- ・防音装置は大変なので囃子の方で音の出ない工夫は出来ないものか。
- ・初心者は座布団でも良いが、技量を上げるには本物の太鼓でなければダメ。
- ・ミュージアムの管轄は財政の関係上現在は都市整備部だが、将来は別なセクションか民間となるだろう。
- ・大型ねぶたの展示は絶対必要。ねぶた祭のスケールをいかに工夫して伝えるかが大事。大賞や最優秀制作者賞などを受賞したステイタスのあるねぶたが望ましい。
- ・大きさの制約のないシンボリックな大きなねぶたを展示するとインパクトがあり良いのではないか。
- ・制作過程の展示も必要ではないか。
- ・陳列だけではなく動きが必要。ねぶた全体の映像の中に動きのある本物のねぶたを加えると一体感が伝わるのではないか。
- ・市民でも制作過程を見たことがない人が多いし、制作過程を見せるのは不可欠。ミニチュアで各制作行程を分けて展示するのは可能だが、通年で制作過程を見せるのは不可能。大型ねぶたの制作スペースがあるのであれば5月からねぶた時期までは制作可能。それ以外の時期は他のことに流用はできるが、制作は停止することになる。作るにしても目的がないままの制作か来年のねぶたを制作することとなる。
- ・学校の工作に取り入れられないか。昔は小さな扇ねぶたを制作し家の前に飾った。

- ・子供達対象に祭に親しんでもらうために面作りなどをしたい。
- ・五所川原の立ち佞武多館では一年中2名の職員が制作している。年間の予算が市から出ていて、1年かけて1台を制作しており、市民や観光客が紙貼りすることができる。青森は早くて年明けから始動なので数ヶ月の空白がある。空いた期間を子供達への制作指導や展覧会などに利用できるが常に制作過程を見せるのは難しい。
- ・平成8年のミュージアム構想に比べると内容が薄い様だが予算の関係か。前の構想は活用しないのか。
- ・経済状況により予算はないが、前回の構想を下敷きにしてる訳ではない。
- ・まずは予算の制約はない上での話。柱となるのは制作過程を見れるということ。そのスペースを冬期間どのように活用するか。今は意見出しの時期。
- ・ねぶたの殿堂というような案内所や貸衣装、着付けなど入り込んだねぶたのすべてがわかる場所にして欲しい。ふるさとミュージアムの一部というならば、ねぶただけではなく三味線や手踊りなど青森の文化を体験できる場所にして欲しい。飲食店やねぶたグッズショップなどを含めたトータルでミュージアムという機能が理想。展示だけだとねぶたの興奮やエネルギーを伝えられない。アスパムのパノラマ館のようなスケールで見入らせる空間を作るなど、かなり工夫が必要。今の観光は団体ではなく小グループなので、仲間同士で金魚ねぶた作りや送り絵の紙貼りなど制作体験ができる仕掛けが必要ではないか。
- ・展示だけで動きがなければおもしろくない。一度見れば充分。動きと体験が必要だがそれには予算が必要。予算が足りなければ寄付や市民の協力を得ても良いのではないか。
- ・ねぶたの里や立ち佞武多の館に行っても本当の感動や驚きは伝えられない。自分の体験している雰囲気伝えたい。ねぶた本体はわかるが、祭りの雰囲気を伝えるのは難しい。
- ・あまり建物を小間切れにせず、大映像・音響・大型ねぶた・囃子を大きな部屋にまとめて時間になったらみんなでハネト体験というのも良いのでは。
- ・イスの配置も決まり切った劇場型のイスの並びではなく昔ながらの町内ねぶたの座り方で雰囲気を出すのもいいのでは。
- ・ねぶた関係者の思いを持ち込むのも大事だが、文化観光施設での成功が不可欠。ねぶたの里はシアターレストランなのでまだ良いが類似しているアスパムとの差別化・役割分担が必要。
- ・ミュージアムの要素はしっかり押さえるべき。日本海側の風流(ふりゅう)系の灯りを使った祭りを紹介しながらその中でもねぶたが一番だという展示をして欲しい。さらに青森ねぶたが日本全国に広がり各地で開催されているというスケールの大きさを上手く展示して見せてほしい。ねぶたを特化すべき。
- ・ねぶたと共通するルーツを持った全国の祭りのサミットを行える場所にして欲しい。調査研究部分が弱い気がする。ミュージアムの研究機能を高めて欲しい。
- ・壁を白くし大きなスクリーンにし映像を流し、メインのねぶたを展示するのに加え天井から武者や虎が飛び出して来そうなインパクトのある作り方もおもしろいのではないか。
- ・これから資料収集がテーマとなる。近年、戦後の写真が出てきたが、ねぶたの資料と

は写真や下絵の他になにがあるのか。

- ・年代の判別が付かないものもあるが写真が多い。次に一世代前の下絵、昔は下絵がなかった。戦後の奉加帳も見つかったが他に珍しいものはない。ねぶたの参考資料はあるが、陳列するようなものはない。収集保存・調査研究がなければただの観光会館になってしまう。近年は参加型が人気であり存続しているので常時ねぶた祭を体験できる場所が望ましい。
- ・徳島では小学校の運動会で阿波踊りをやらせて伝えている。青森でも学校で教えて認識してもらえば良いのでは。資料は見る人によってがらくたや宝にもなるので、なんでも集めておいて数人の専門員をおき保管や整理しておくことが必要。今から古いねぶた関係者の協力を得て古い写真を判定して行かなくてはならない。
- ・ねぶたの殿堂という名人位コーナーを作るのであれば名人位の基準が必要。制作者に限らずねぶたの先達を掘り起こして検証していてもいいのでは。
- ・ミュージアムとは喜び、青森賛歌、これこそが青森というものを感じさせるには、「市民こぞって」何かをやる場面を作ってもらいたい。例としてはねぶたの時の笑顔の写真を壁一面にはるコーナーを設けるなど。
- ・ねぶたを実感でき感動できる場所にして欲しい。
- ・ねぶた終了後のスペースが空いている期間に、ミニねぶたなどを活用し子供達に楽しさを味あわせる場所にするなど観光客だけではなく地域団体や市民が活用でき市民が支えていると感じる場所、運行団体の横のつながりをもてる場所に欲しい。
- ・制作者同士の横のつながりがないように感じるので、制作者が交流できる部屋があればいいのでは。制作の手がかりになるような空間もあれば制作者の後継者育成になるのでは。
- ・制作の材料がすべて手にはいるような部屋があれば良い。
- ・制作者は各自資料を持っているし、あくまでも個人プレーだが、意識の上でまとまる様な場所になって欲しい。
- ・地域や市民を巻き込んでミュージアムを盛り上げ、市民の財産としたい。フリースペースを写真展や金魚ねぶた作り等で活用できるような、地域の人たちが使用できる施設・スペースにして欲しい。
- ・地域ねぶたを伝えられるコーナーを設けて欲しい。青森市は街中にねぶたがあることを伝えたい。
- ・ねぶたに関しては個々の沢山の意見がある。可能な限り多くの意見を取り込みたい気持ちはあるが、何でも受入ると前回のように成就しない。財源にしても新幹線開業を契機として動かしたいと考えている。一定の期間、場所の制約、財源で考えると全部出来ないかもしれないが、やる以上は最大公約数で進めたい。市民にとって誇りとなるものにしたいし、祭りを実感できる演出をしたいが、毎日人的なものだと大変なので、映像使用もあるかもしれないがご理解頂きたい。

#### ○次回委員会開催について

議題 ねぶた祭健全化について

日時 平成17年12月12日(月) 午後1時30分～3時30分

以上